

目 次

第1部 序論—立法学総論—

- 1 立法学の意義 3
 - (1) 実務・実社会から乖離したアカデミズム 3
 - (2) アカデミズムへの期待 7
コラム 公共政策系大学院についての一雑感 10
 - (3) 立法学の意義 12
- 2 立法学の体系 13
 - (1) 先行業績の整理 13
 - (2) 体系試論 20
- 3 立法学の課題 22
 - (1) 公平と効率…立法政策論の課題 23
 - (2) 政治主導…立法過程論の課題 24
 - (3) 時代に対応した市民に身近な法…立法技術論の課題 24

第2部 立法過程論—立法を巡る制度と動態—

第1章 我が国における立法過程の鳥瞰図————— 29

- 1 立法のプロセス 29
 - (1) 立法の舞台 29
 - (2) 立法の流れ 30
- 2 我が国における立法過程の特徴と課題 35
 - (1) 官僚主導の立法過程 35
 - (2) インフォーマルで不透明な与党審査（政府・与党二元体制） 36
 - (3) 議事運営を巡るインフォーマルで不透明な国対政治 37
 - (4) 形骸化した国会審議 38
 - (5) 低調な議員提出法案 38
- 3 立法を巡る統治機構論 39
- 4 「第2部 立法過程論—立法を巡る制度と動態—」の狙いと流れ 40
 - (1) 第2部の狙い 40
 - (2) 第2部の流れ 40

第2章 省庁内過程 42

- 1 立法の契機 42
 - (1) 設定型問題 42
 - (2) 発生型問題 43
- 2 立法に当たっての考慮要素 47
- 3 政策資源 51
- 4 省庁における意思決定プロセス 54
 - (1) 意思決定方式の類型 54
 - (2) 官房の機能 58
 - (3) 省庁における意思決定方式の評価 61
 - コラム 意思決定方式とリーダーシップ 63
- 5 審議会の機能 64
 - (1) 従来の機能 64
 - (2) 審議会の問題点 67
 - (3) 中央省庁等改革による審議会の整理・合理化 68

第3章 政府内過程 71

- 1 主流としての内閣提出法案 71
 - (1) 内閣提出法案と議員提出法案 71
 - (2) 内閣の法案提出権の根拠 78
- 2 具体的な流れ 79
- 3 内閣法制局審査 81
 - (1) 内閣法制局の業務・組織 81
 - (2) 審査の内容 82
 - (3) 内閣法制局審査を巡る評価 83
- 4 各省協議 86
 - (1) 各省協議の必要性と機能 86
 - (2) 争点の類型 87
 - (3) 各省協議の流れと帰結 88
 - (4) 各省協議の問題点 89
 - (5) 省庁間の政策調整 90
- 5 閣議 91
 - (1) 内閣の連帯責任 91
 - (2) 事務次官等会議 92
 - (3) 閣議 94

第4章 与党内過程 ————— 96

- 1 与党審査の仕組 96
 - (1) 与党審査の根拠 97
 - (2) 日本特有の与党審査 100
- 2 与党審査の舞台 101
 - (1) 連立政権における政策決定機関 101
 - (2) 自民党与党審査の運営 103
 - (3) 自民党政務調査会部会 105
 - (4) 自民党政調審議会・総務会・国会対策委員会 108
- 3 族議員 110
 - (1) 族議員登場の背景 110
 - (2) 族議員の実態 112
 - (3) 利益団体と後援会 113
 - (4) 族議員と官僚 118
 - (5) 政府・与党二元体制の出現 119
- 4 与党審査の功罪 120
- 5 与党審査廃止論 123
- 6 民主党における与党審査 125
- コラム 「分配の政治」 127

第5章 政官関係 ————— 130

- 1 政官関係論 130
 - (1) 政官関係論の系譜 130
 - (2) 政官関係論に関する筆者の見解 134
- 2 官僚主導の限界 136
- 3 政官関係の規範 137
- 4 欧米における政官関係 138
- 5 政官関係のあるべき姿 142
 - (1) 官僚主導から政治主導へ 142
 - (2) 与党・政治家主導から内閣主導へ 143
- コラム 自民党の派閥 146

第6章 官僚制 ————— 148

- 1 官僚の機能とその変容 148
 - (1) 官僚像の類型 149
 - (2) 官僚に対する評価 152

2	官僚の業務と人事管理システム	153
(1)	官僚の業務	153
(2)	人事管理システム	155
3	官僚の閉塞感	160
4	官僚制の揺らぎ	163
(1)	環境の変化	163
(2)	企画立案と利害調整	164
(3)	新たな官僚像への戸惑い	166
5	公務員制度改革	169
(1)	公務員制度改革大綱	169
(2)	公務員制度改革大綱への批判	171
(3)	公務員制度改革への着手	172
(4)	公務員制度改革に関する筆者の見解	176
コラム	官僚の一日	181

第7章 マスコミ 185

1	マスコミの影響力	185
コラム	地方紙と専門紙	186
2	マスコミの行動原理	188
(1)	記者クラブ	189
(2)	番記者	192
3	マスコミの基盤	196
4	マスコミの課題	198
コラム	マスコミについての一雑感	201

第8章 国会内過程 203

1	国会制度	203
(1)	「国権の最高機関」と「唯一の立法機関」	203
(2)	国会、議院の権能	204
(3)	二院制と衆議院の優越	204
(4)	会期制と会期不継続の原則	205
(5)	本会議中心主義と委員会中心主義	207
2	審議の流れ	208
(1)	冒頭演説及び代表質問	208
(2)	予算委員会	209
(3)	法案審査	211
(4)	政府委員制度	218

3	国対政治	219
(1)	議院運営委員会	219
(2)	国会対策委員会	221
(3)	国対政治を巡る評価	223
4	野党の機能	224
(1)	ラバースタンプ説とヴィスコシテイ説	224
(2)	野党の抵抗資源としての可処分時間	225
(3)	与野党の攻防	227
(4)	与党の譲歩	229
(5)	野党の抵抗の限界	229
(6)	与野党対立プロセスの制度化	230
5	審議パターン	233
コラム 日本政治における対立軸		234
6	官僚の国会対策	238
(1)	国会質疑の意味	238
(2)	想定問答の作成	238
	コラム 国会連絡室の一日	241
	コラム 国会質疑の舞台裏	242
(3)	根回しの重要性	243

第9章 議員提出法案 250

1	低調な議員提出法案	250
(1)	低調さの背景	250
(2)	議員提出法案の歴史的推移	251
2	内容・性格の類型	252
3	審議の実態	255
4	立法補佐機関	258
5	議員提出法案の位置付け	261
(1)	立法補佐機関を巡る評価	261
(2)	議員提出法案の役割	263

第10章 国会の機能 266

1	立法過程を巡る課題	266
	コラム 行政立法	269
2	国会機能論	271
3	変換議会とアリーナ議会	275
(1)	議会機能の類型	275

(2) 我が国における国会の位置付け	276
--------------------	-----

第11章 政治主導 280

1 イギリスにおける議院内閣制	280
コラム アメリカにおける大統領制	287
2 内閣機能強化への取組	290
(1) 近年の改革	290
(2) 小泉政権の登場	294
(3) 「強い首相」を生み出す要因	300
(4) 残された課題	303
コラム 2009年政権交代	307
3 国民内閣制論	311
(1) 国民内閣制論の内容	312
(2) 国民内閣制論への批判	317
(3) 国民内閣制論に関する筆者の見解	321
4 首相公選制論	323
(1) 首相公選制論の内容	323
(2) 首相公選制論に関する筆者の見解	327
コラム マニフェスト	329
5 リーダーシップ所在の分散性	332
6 「分配の政治」、先送りの政治から政策本位の政治、決断の政治へ	335
コラム 日本の政治学についての一雑感	341

主要参考文献	347
--------	-----

索引	359
----	-----

(脚注に記したインターネット情報への最終アクセス日は、特に示さない限り、2013年7月31日である。)